

雰囲気変えて、ときには気軽に山歩き。

きれいな自然に親しみながら、ココロとカラダに元気をあげる。

後山は標高632.7mの、山容穏やかな里山です。里山とは、集落の近くにあり、かつて薪炭用材や山菜を採取していた山で、里の住民と深いつながりをもっていました。

現代では、そうした行いはすっかり影をそめてしまいました。が、豊かな自然の生態系のおかげで、さまざまな命を育んでいるなど、大きな役割を果たしていることには変わりありません。

後山の木々がつくる森からは何種類ものテルペン類、いわゆる



後山の最高地点を示すポール。

フィトンチッドが放散されています。テルペン類には抗菌作用や消炎作用があります。これに触れるのが森林浴で、心身にも良い影響が得られるとされています。

若々しく新鮮な新緑や力強い濃緑、美しい紅葉と、折々の表情を楽しみながら歩けばさらに効果的です。

「後山古道コース」は7コースで、総延長は約5,700m。ファミリーでも気軽に楽しめる設定になっています。後山のやさしい自然にたっぷりひとひたてみましょう。



足音といっしょに、歳月の息吹きがきこえてくる。

後山古道コース

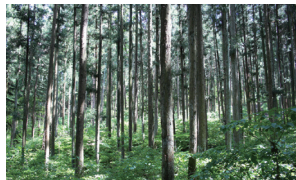
USHIROYAMA KODO COURSE

大昔は火山だった!

古代、後山は火山でした。村内にある雨乞山とともに噴火した溶岩が谷を埋め、自然の埋没が築かれました。そして、山々から流れてくる水がたまって湖(川場湖)ができました。その後、湖の水が流出し、後山が残ったのです。

後山は中生層と蛇紋岩類からなる山で、武尊山から流れ出る薄緑川の流れに前らし、現在の形になりました。

村内からは、10万年前頃に生息していたマウマン象の骨の化石や、縄文時代の石器、土器類が発掘されています。白樹やな里山(後山)にも、遙かな歴史とロマンスがあるので。



後山の仲間たち

のんびりと里山散策、じっくりと自然観察。

後山にはたくさんの動物がすみ、100科430種を超える植物が彩りを添えています。カメラやノートを持って歩いてみましょう。日常にはない新しい発見があるかもしれません。

- ノコギリ**
ウサギ科。寒い地方では、夏毛は薄い茶褐色。冬毛は白。森林、草原などにすみ、小鳥、蛇類などを食べる。単独で暮らす。1回1回1~5匹の子を産む。ニホンノウサギとも呼ばれる。
- クヌギ**
イナゴ科。雄樹長55~65cm。夜行性で、木の表皮や葉などにすみ、雑食で、ネズミ、昆虫、果実、人間の残骸なども食べる。単独で暮らす。1回1回4~6匹の子を産む。
- シラカシ**
フナ科コナラ属。樹高20m。花柄は4~5月。材の色が赤いことからクワカシとも呼ばれる。防風用として家屋の周りに植えられることもある。樹皮や果実は染料になる。
- ツルシキミ**
ミカン科ヤマシキミ属の常緑性木。樹高4~10cm。冬は赤い花が咲く。根は立ちあがらず地這い。花期は5~6月で、小さな白い花を咲かせ、実がアールコイドを含有する。
- キツネ**
日本で一般的にキツネと呼ぶのはイナゴ科のアキキツネ。さまざまな種類に区分される。夜行性で雑食。通常は単独で暮らし、春から初夏にかけて3~5匹の子を産む。
- アジ**
イタドリ科。樹高長45~50cm。毛の色は、夏は褐色。冬は黄か白褐色の色になる。夜行性で、トウガク、小鳥、昆虫、木の実などを食べる。4~5月頃2~4匹の子を産む。
- ツルシモコ**
バラ科ツルシモコ属の多年草。高さ30~100cm。花期は8~10月。葉は濃緑色で、落葉で止まりや解つなどの薬とする。漢字では苦茶根、吾木根、我毛根などと表記する。
- オオバコロモジ**
クスノキ科のロシモジ。花期は4月。材は白色から白褐色。竹で編物を作るときが、茶色の取りまきなどにも使われる。香道油を含む黒文字油をもち、独特の香がある。



交通アクセス

●車	●上越新幹線	●JR上越線
緑島川	東京	上野
関越自動車道90分	75分	120分
沼田IC 10分	上毛駅 30分	沼田 バス30分

- 小鳥沢コース 880m
- 天神山コース 780m
- 御堂コース 530m
- 田園プラザコース 630m
- 虚空蔵遊歩道 450m
- 山頂後線コース 1,700m



川場村役場
TEL.0278-52-2111
http://www.will.kawaba.gunma.jp
〒378-0011 群馬県利根郡川場村谷地2390-2



川場村観光散策ルート
後山古道コース
KAWABATA KODO COURSE

- 小鳥沢コース 880m
- 田圃プラザコース 630m
- 天神山コース 780m
- 虚空庵遊歩道 450m
- 御堂コース 530m
- 山頂稜線コース 1,700m

古道を歩けば、日頃見逃しているものが見えてくる。古くから村民の暮らしに深く関わり、大切な役割を果たしてきた「後山」。いま、その価値があらためて見なおされていく。山や生態系の保護が行われ、古道を中心とした林道や遊歩道などの道路整備も進められている。後山には、現代人が忘れてしまったことや失ったものがたくさん息づいています。ゆつくり散策してみましょう。きっと何か発見があります。

里山を歩いて見つけよう、心のふるさと。



山頂稜線コースには大きな木が多い。マツの森に小さなキノコがたくさん生えていた。



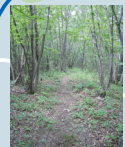
虚空庵遊歩道は、上り口を入れて間もなくスギ林の森になる。その後は美しい広葉樹の林が続く。緩やかな階段は上りやすい。



この道筋は昔のコースよりも広く、広いことも多い。ここで三つのコースが交差する。ちょっとむづかしいので注意。



小鳥沢コースは距離がやや長く、少し急な上りもある。この差路を通過すると、間もなく右側にスギ林が見える。



「天神山コース」は、平坦なところはほとんどない。急な上り坂も数カ所ある。ちょっとハードな健脚向きのコース。でも、水やに濡れたて木漏れ日の中を歩くのは気持ちいい。



後山には430種もの植物が分布している。折々の野菊や花を身近で観察できるので、園芸を興えてあげばおもしろい。



能満山虚空庵
平安時代初期の創建で、本尊の虚空蔵菩薩は、空海上大師ゆかりと伝えられています。地元立岩ばかりでなく、付近の村々の住みからも奉崇されており、利根郡内でも有名な家のひとつです。山頂には十数メートルの巨柱があります。

川場村を歩こうよ!